



フレンチブルドッグ
にまつわるモノ
はつん
(ZAIHOO代表)
COLUMN



はつん (ZAIHOO代表)

フレンチブルドッグ専門サイト「ZAIHOO (ザイホー)」代表。首までどっぷりフレンチブルドッグに浸かった38歳。現在は5プヒに囲まれながらフレンチライフの高みを目指す。ワイルドというよりはマイルドなタイプ。

僕

僕がオススメするモノではなく、僕の「フレンチブルドッグにまつわるモノ」だ。

熱中症対策のモノ

フレンチと暮らしている方、BUHIを愛読されている方はすでに重々ご存知だと思いが、フレンチの一番の天敵は、暑さによる熱中症です。そもそも基本的に体の強くない犬種ではありますが、命にまでかかわる熱中症には気をつけすぎはないくらいだと思います。ということで気をつけるのは当たり前として、もしもその時は？ それもお家ではなく外出先の場合は？ なんてことを考えて、僕の車には熱中症対策として常備しているモノがあります。まずはプヒちゃんの体がすっぽり入るくらいの入れ物（バーベキューなどで大量の飲みものと水を一っしょにプカプカ浮かせて冷やしておくような入れ物）とクーラーボックス、その中に保冷剤ポリタンクに水、バスタオルなどのタオル類です。もし外出中や車内で「熱中症かも？」がおとすれてしまったら、まず車のエアコンを限界まで下げて、プヒちゃんの体がすっぽり入る入れ物にいれ、ポリタンクから体に水をかけます。入れ物に溜まった水の中に保冷剤を入れてさらに冷やしたり、その水にバスタオルをつけ、濡らしてプヒちゃんの背中にかけながら、脇の下や内股、首周りなどを冷やしてあげてお水を繰り返します。も

ちろん暑い時期にプヒちゃんを連れての外出は出来る限り避けたいですが、どうしても、という時は誰しも可能性はありますので、準備できることはしておいたほうがよいと思います。熱中症に気がつけすぎはないうらいと、言いましたが、部屋での冷房の温度の下げ過ぎは注意しましょう。あまり下げ過ぎると、体質的にどんな暑さに弱くなってしまっているので、冷房か除湿の27℃、28℃くらいの設定で慣れてくれるのがベストかと思えます。

さらに、もしも？の為に知っておいていただきたいのは、熱中症での直接の死因になるのは窒息死が多いということです。プヒちゃんが自分の体の熱を下げる為に、舌を出し苦しそうにガアガアやっているうちに舌が紫色になり巻いてきて、そのまま舌が喉に詰まり気道が塞がれ、窒息してしまおうという流れです。なのでそんな時は口に手を突っ込み、喉に詰まった舌をひっぱって伸ばし、気道を確保してあげることがです。その時点で気を失っている可能性も高いので、意識がもどるまで気道を確保します。意識があれば、舌を伸ばしてあげればプヒちゃん自身が戻そうとするかもしれないので、パニックになっっていることも多いので、手を噛まれる可能性もあることは頭に入れておいたほうがいいと思います。

まうので、そのまま気絶して倒れてしまいかもありません。その場合も、とにかく水をかけて体を冷やして気道を確保してください。ちなみに暑さだけでなく、興奮しやすい性格の子や気の弱い性格の子は、状況によって気温とは関係なく呼吸が荒くなり、同じ症状になることがあります。同じで、その時も対処の仕方は同じで、とにかく冷やすことです。

ヒート (生理) 対策のモノ

プヒ女子と暮らしていらっしゃる方は、ヒート (生理) にどう対応されていますか？僕は最初、市販の犬用紙オムツを使っていましたが、市販のものは、装着する際にシッポを穴に通して腰の両サイドをマジックテープで止めて固定する形です。でもフレンチってシッポがないですよ？ もしくは少しあるんですけど機能しない長さですよ？ そうなると、紙オムツがすぐぐずれちゃうんです。経験された方も多いと思いますが、すぐ直してもすぐぐずれちゃうんですよ。なので僕はあきらめて、ヒート中は部屋中に汚れても大丈夫な布を敷いて、洗濯を繰り返すというなんとも面倒な方法をとっていました。それは、多少ですがインターネットにこだわりのある僕としてはしんどい期間なわけですよ。そこで、なにかいいものはないかと試行錯誤を繰り返して完成したのが、ZAIHOOオリジナル「フレンチ用サニタリーウェア」なわけですよ。形状としてはトックスとポトムスの上下が一体型に

なった、子ども用の遊び着「ロンパース」みたいな感じです。使い方としては、市販の紙オムツを装着した上にサニタリーウェアを着せて、オシリをマジックテープで止めるだけ。出血が少ない時期でしたら、陰部が触れる部分のみに人間の吸収パッドを入れて使用するのも可能です。使用中にオシッコやウンチで紙オムツを交換する際も、オシリのマジックテープをただで簡単に交換できます。デザインはシンプルで可愛いものに仕上げ、カラーはボーダー、レッド、グレーの3色を作りました。プヒ6頭中、女子4頭と暮らす僕が実際に困ったから生まれたサニタリーウェアです。完成してからは逆に早くヒートがこないか待ち遠しくなってしまうくらいです (笑)。

病気対策のモノ

皮膚トラブル対策のモノ
ウチでは今現在、ドクターブロのドッグフードを与えています。1歳まではラムベビー、1歳以降はラムリトル、老犬、肥満気味になってきたらラムライトにしています。ただ、5〜9月くらいの湿度が高かったり暑い時期になると、6頭中2頭は皮膚トラブルが出やすい子たちがいるので、その子たちにはその時期、ロイヤルカナンのスキンサポートを与えるようにしています。スキンサポートは、皮膚疾患の犬に給与することを目的として、特別に調製された食事療法食です。この食事は、食物アレルギーの原因となりにくい高消化性の原材料を使用し、またω3系脂

肪酸 (EPA, DHA) やクルクミン、アロエおよび抗活性酸素物質を含有しています。僕はスキンサポートに限らずドクターブロの時も、フード以外のトッピングはドッグショーにチャレンジする子以外はほとんどしません。フードの時点でバランスが計算されているわけですから、理由がない限りはそれをわざわざ崩す必要はないかと思っています。

僕がZAIHOOをはじめた頃にプリーダーさんに教えていただいた「もっともくわしいイヌの病気百科」という犬の病気全般がわかる本。ペテランの獣医師や大学教授など16人の専門家が、犬のあらゆる病気とケガについてくわしく解説した、日本初の本格的な犬の家庭医学書。初期症状で自宅で判断できる解説や、犬用の薬の効能、マシジョンでの生活、最新治療技術の発達やベトレス問題など。内容は人間の「家庭の医学」に匹敵するそうです。キュービーが子犬の頃、後ろ足をひねったときも、異物を飲み込んでしまったときも、プリンの前足がある日突然腫れあがってしまったときも、僕は真っ先にこの本を開きました。そして状況を把握して、安静に様子を見たり、すぐに獣医さんに行ったり、プリーダーさんから情報を聞いたり、と、異変を感じたときの最初の指標として役立っています。